

# 平成 13 年度事業計画

自 平成 13 年 4 月 1 日～至 平成 14 年 3 月 31 日

ソサイエティ開始 7 年目にあたる 13 年度は、内部留保の有効活用の一環として、大会の活性化、英文論文誌のグローバル化、会員増強等、更なるソサイエティの活性化へ向けた新たな施策を支援する「ソサイエティ活性化基金」を設立して、運用を開始する。

13 年度も、昨年の電気学会との相互協力の覚書調印に続いて、国内関連学会との友好・協調関係の輪を拡大しながら、学会の将来像を探ることとする。

13 年度事業計画はおおむね次のとおりとする。

## I. 本部事業

### 1. 大会に関する事項

#### 1.1 2001 年総合大会

次により開催する。

期 日 平成 13 年 3 月 26 日 (月) ～ 29 日 (木)

場 所 立命館大学びわこ・くさつキャンパス  
(滋賀県草津市)

講演件数は約 3,100 件が見込まれる。

懇親会は 3 月 27 日 (火) 大会会場キャンパス内のリンクスクエアにおいて開催する。

#### 1.2 平成 13 年電気・情報関連学会連合大会

(事務担当：本会)

企画・運営を簡素化して実施する (日本学術会議シンポジウムを併催)。

また、開催形式として本会 2001 年ソサイエティ大会の最終日に併設とする。

主催学会 (本会、電気学会、照明学会、映像情報メディア学会、情報処理学会) の拠出金により運営する。

期 日 平成 13 年 9 月 21 日 (金)

場 所 電気通信大学 (東京都調布市)

### 2. 国際会議に関する事項

主催・共催の国際会議を次のとおり開催する。

#### (1) 2001 Progress In Electromagnetics Research Symposium (PIERS 2001)

2001.7.18～22 大阪市：コスモスクエア国際交流センター

#### (2) 2001 年アジア・太平洋電波科学会議 (AP-RASC'01)

2001.8.1～4 東京：中央大学理工学部

### 3. 出版に関する事項

#### 3.1 会誌

会誌は学会のアイデンティティを定める重要な媒体で、最も基本的な会員サービスの一つであるため、編集連絡会の下に内容充実を図るべく、「会誌、論文誌のあり方検討WG」を設置しているがこれを継続してより一層「読みやすく、親しみのある会誌」を目指すこととする。

##### (1) 本文

年間ページ数 980 ページ (月平均 81.6 ページ)

(目次 36 ページ、巻頭言 12 ページ含む)

年間発行部数 469,200 部 (月平均 39,100 部)

特集、小特集、特別小特集を 6 回発行する。

13 年 5 月特集 21 世紀の医療・福祉を支える科学技術

8 月小特集 1 億超トランジスタ時代のシステム  
LSI

10 月特別小特集 エレクトロニクステクノロジーで  
環境を顧る

11 月特集 モバイル社会を支える先端技術  
——小型化と使いやすさを極める——

14 年 1 月特別小特集 IT とスポーツ

3 月小特集 いにしえの世界を探る電子情報技術  
(仮)

(2) 会告 660 ページ (月平均 55 ページ)

会誌会告ページにより諸行事等の周知を図る。

(3) 広告 540 ページ (月平均 45 ページ)

#### 3.2 単行本

これまでの出版活動を継続し、売上げの増加に努める。

新刊 5 点 重版 15 点

なお、「大学シリーズ」、「ヒューマンコミュニケーション (工学) シリーズ」などの委託出版について円滑な進行を図る。

#### 3.3 ハンドブック

ハンドブック委員会 (第 7 次) において、エンサイクロペディア電子情報通信ハンドブックのメンテナンス、部門別ハンドブックの製作等について審議・検討する。

#### 3.4 図解 電子情報通信レクチャーシリーズ (仮)

大学院、学部学生並びに一般社会の勉学者にビジュアルな新しい教科書を供することを目的に、63 書目を各執筆者に依頼、平成 14 年 3 月第 1 巻刊行を予定している。

### 4. 規格調査会に関する事項

(1) IEC 文書を主に審議を行う。

専門委員会数 5 専門委員会  
委員会開催数 61 回

(2) IEC の依頼に応じて IEV (国際電気用語集) の日本語への翻訳作業を行う。

専門委員会数 1 特別専門委員会  
委員会開催数 1 回

(3) 記号関係は、文書審議を主に行う。

専門委員会数 1 特別専門委員会  
委員会開催数 1 回

### 5. 選奨に関する事項

13 年度は、各賞とも規程どおりに選定することとする。

功績賞 原則として 3 名以内  
業績賞 イ項、ロ項 各約 3 件  
論文賞 12 編  
猪瀬賞 1 編 (論文賞中から)  
学術奨励賞 各ソサイエティごとの発表件数の 1.5 % 以内の受賞者

## 6. 先端オープン講座に関する事項

平成12年度と同様に、基礎レベル（3コース）と専門レベルコース（1～2コース）を春・秋の2回（5あるいは10週）を実施する。

## 7. 専門講習会に関する事項

支部主催、本部支援の専門講習会を次のとおり予定する。  
7支部（北海道、東北、信越、東海、関西、四国、九州）

## 8. 学生会活動に関する事項

### 8.1 学生会連絡会

各支部学生会顧問との密接な連携のもとに各種学生向け行事の意見交換を行い、学生会活動の活性化と学生員の入会勧誘を図るため、情報小冊子の発行、ポスター及び学生にアピールできる特典と入会申込書をセットした学生用入会申込書（A4判）の作成を行う。

### 8.2 学生会

学生会事業は、各支部の「学生会運営基準」のもとで、支部に密着した事業を推進していくこととする。

- (1) 学生員の入会勧誘は、学生会連絡会と各支部の相互連携のもとに積極的に進める。
- (2) 事業活動は、学生会顧問の協力を得て、各支部において講演会、見学会等を行い、活性化を図る。

## 9. 広報活動に関する事項

マスメディア及び国際化に向けた広報のあり方、学会ホームページ情報管理のあり方等の検討を進める。

また、社会及び青少年に対する普及広報活動は、支部・ソサイエティと連携しながら更に規模、範囲等を拡大していくこととする。

## 10. 検討部会に関する事項

### 10.1 ソサイエティの自立化について

12年度は「ソサイエティ独立採算化検討WG」において各ソサイエティの収支構造の検証をしてきたが、13年度はそれを踏まえてソサイエティ会費を仮設定し、経理等のシミュレーションを実施し、14年度予算策定へ向けて検討することとする。

また、新たに創設された「ソサイエティ活性化基金」を活用したソサイエティ自立化へ向けた新規施策（ソサイエティ連携または単独）を検討する。

### 10.2 新しい会員制度について

「電子化サービスと新しい会員制度委員会」において、新しい会員資格、会費、オンラインジャーナルの課金、出版物の電子化、著作権等について総括的・長期的に検討することとする。

### 10.3 電子化について

電子化推進に関し、和・英論文誌を中心に著作物のデジタルドキュメント化による出版関連事業の迅速化・効率化を図ることとする。

また、ソサイエティの電子化と連携しつつ、処理速度の向上、ウイルス対策など会員の利便性を考慮したネットワークの再構築を図ることとする。

### 10.4 技術者教育認定制度について

12年度は、日本技術者教育認定機構（JABEE）と連携して、米国 ABET の審査へオブザーバ参加及び JABEE 研修会参加による審査員の育成、プログラム並びにカリキュラムの具現

化、マニュアルの整備等を進め、2校の試行審査を実施した。

13年度は、上記成果を精査し、本実施へ向けてマニュアルの整備、審査員の育成等に務めることとする。

また、継続して希望学校の試行審査を実施する予定である。

### 10.5 ホームページについて

昨年度に引き続き、コンテンツの充実、内容更新体制、リンク機能、オンライン電子手続き等の検討を行い、実施可能のものから鋭意推し進め、ホームページの充実を図ることとする。

### 10.6 他学会との連携について

関連学会との協力関係を深め、限られた範囲で実施していた会員へのサービスを、相互の会員が同等の会員割引を受けられるように範囲の拡大、研究会等の合同（共催）、大会の合同等を推進することとする。

## 11. 会員に関する事項

- (1) 会員増強委員会で企画された会員増強のための諸施策の具現化に努力する。
- (2) 入会勧誘を積極的に行い（特に海外会員への周知・勧誘を引続き積極的に行うこととしたい）、同時に連絡先不明者の追跡調査・会費納入促進等により退会者の減少にも努力する。
- (3) 会員証による会員への特典制度の充実に努め、会員の便宜を図る。
- (4) これらの活動を通して会員数減少に歯止めをかける。

	名誉員・正員	学生員	准員	特殊員	維持員	合計
12年度末会員数	32,689	4,062	48	443	320	37,562
13年度末会員数	32,470	4,030	130	470	330	37,430

## II. ソサイエティ及びグループ事業

### ◎ 基礎・境界ソサイエティ

基礎・境界ソサイエティは、本学会関連の研究分野のうちでも境界領域や基礎領域及び新しい領域での研究活動を支援し、推進するという重要な役割を担っている。この点を深く認識の上、ソサイエティ活動の活性化と会員サービスの充実に向け、引続き一層努力する。主な活動予定は以下のとおりである。

#### [大会関係]

これまで検討してきたソサイエティ大会の改革を推進し、参加者にとってこれまで以上に有意義で魅力ある大会とするよう、非会員をも対象とする講演会の企画・実施並びに支援などにソサイエティ活性化基金を利用して取り組む。

#### [研究会・シンポジウム関係]

既存の第一種研究専門委員会の研究活動をより促進するとともに、学術研究集会（国際シンポジウム）、第二種研究会、並びに第三種研究会の活動を支援し、新しい研究分野の開拓に努力する。更に、ソサイエティ活性化基金を利用して、本会・本ソサイエティが世界で主導すべき研究分野に関するソサイエティ主催の国際会議の設立・実施に向けた検討を進める。

#### [論文誌、ホームページ、ニューズレター、国際化関係]

インターネットの利用による会員サービスの充実やソサイエティ活動の効率化・国際化について本部事業に連携して進めていくほか、ニューズレターの充実について検討する。ま